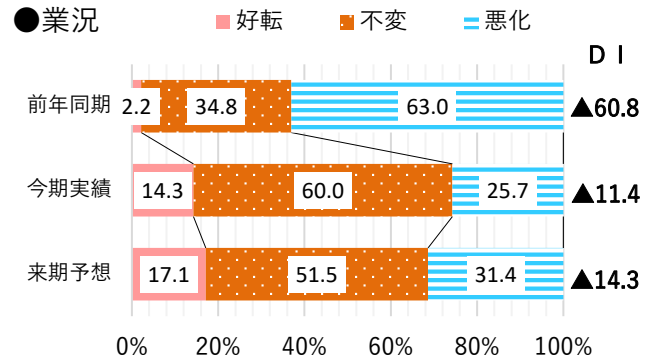


製造業

業況、売上、採算

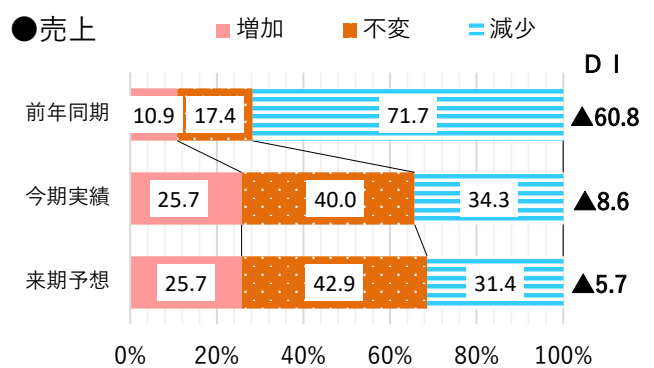
今期(2021.4~6)の業況判断DIは▲11.4で、前年同期(2020.4~6)と比べ49.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.7~9)は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



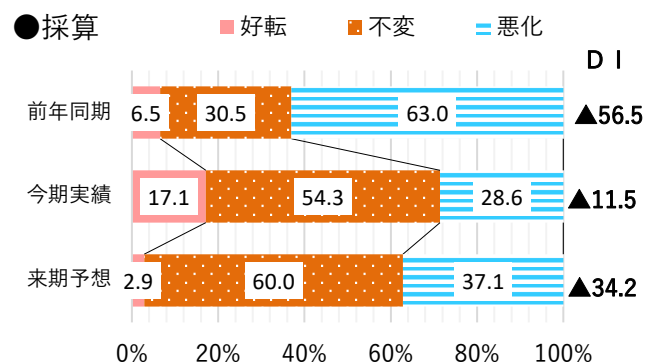
今期の売上DIは▲8.6で、前年同期と比べ52.2ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、売上に大きな変化はないと予想しています。

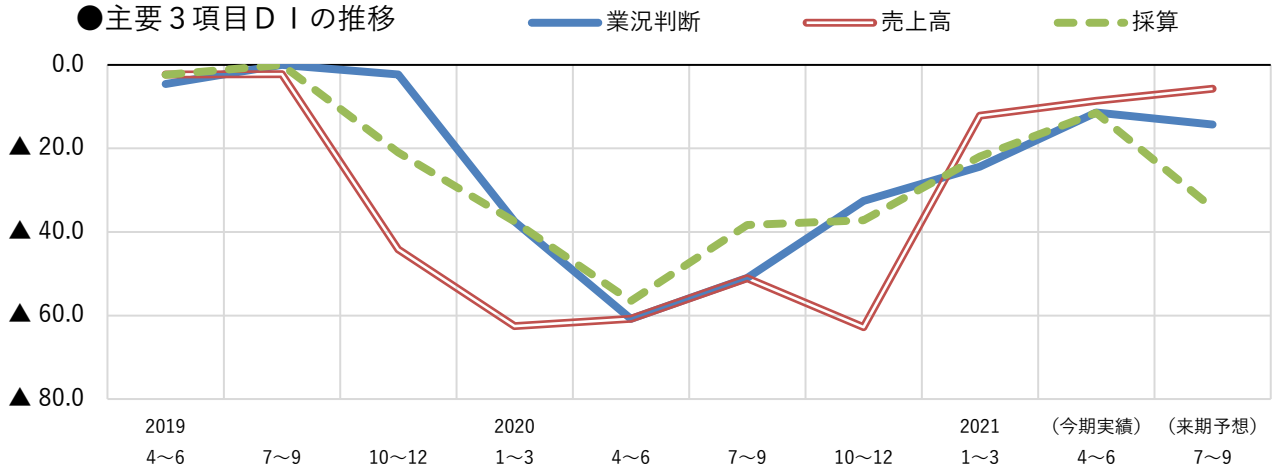


今期の採算DIは▲11.5で、前年同期と比べ45.0ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



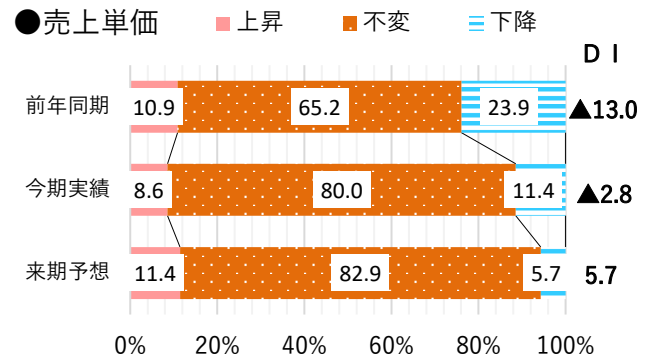
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

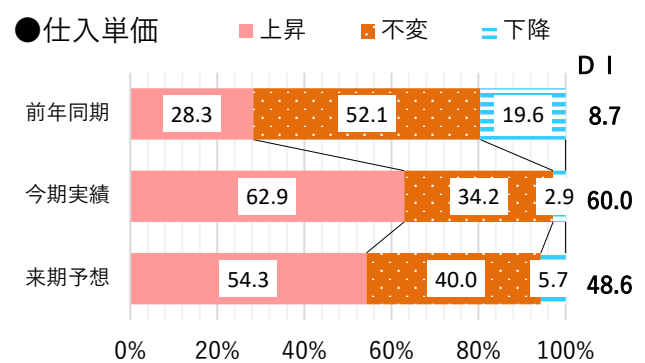
今期の売上単価DIは▲2.8で、前年同期と比べ10.2ポイント上昇しました。

来期は、売上単価が上昇に転じると予想しています。



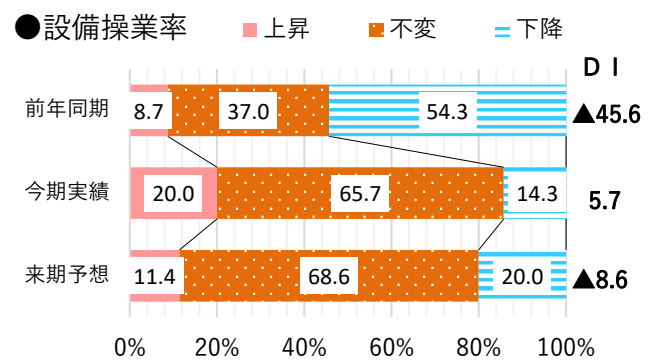
今期の仕入単価DIは60.0で、前年同期と比べ51.3ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは5.7で、前年同期と比べ51.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

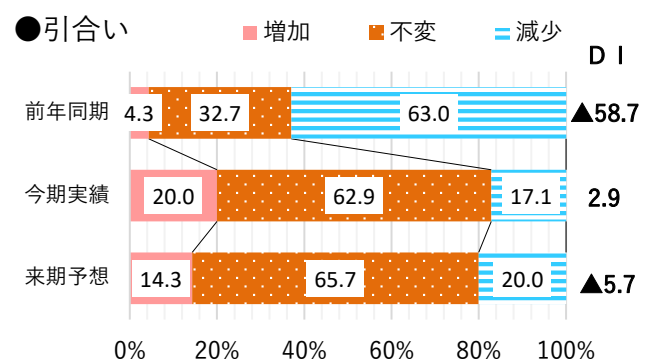
来期は、設備操業率が下降に転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは2.9で、前年同期と比べ61.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

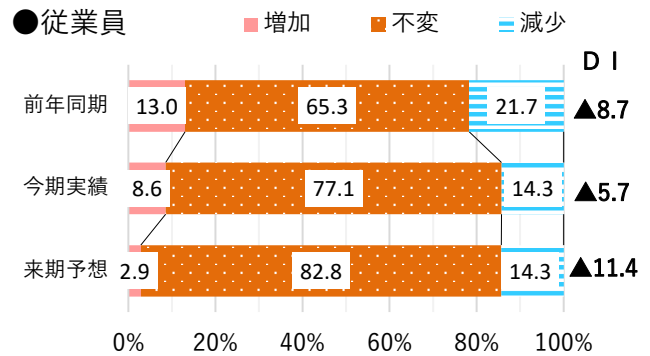
来期は、引合いが減少に転じると予想しています。



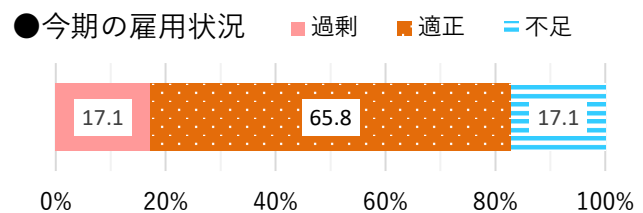
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.7で、前年同期と比べ3.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は17.1%、適正であると回答した企業の割合は65.8%、不足していると回答した企業の割合は17.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の51.4%を占めています。

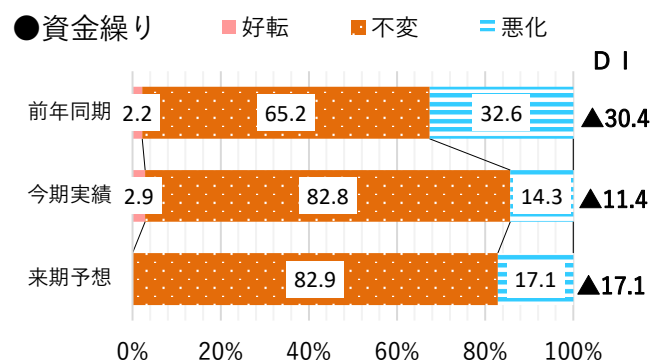
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	4
	適正	18
	不足	5
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	1

資金繰り、設備投資

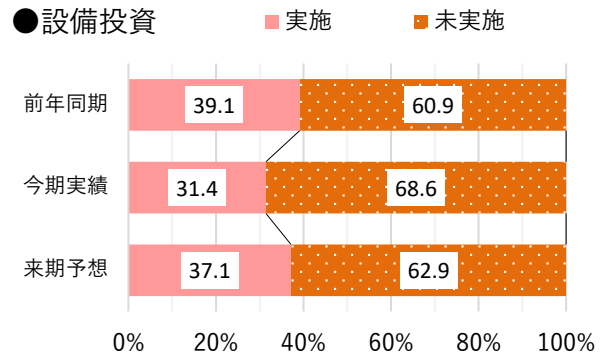
今期の資金繰りDIは▲11.4で、前年同期と比べ19.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



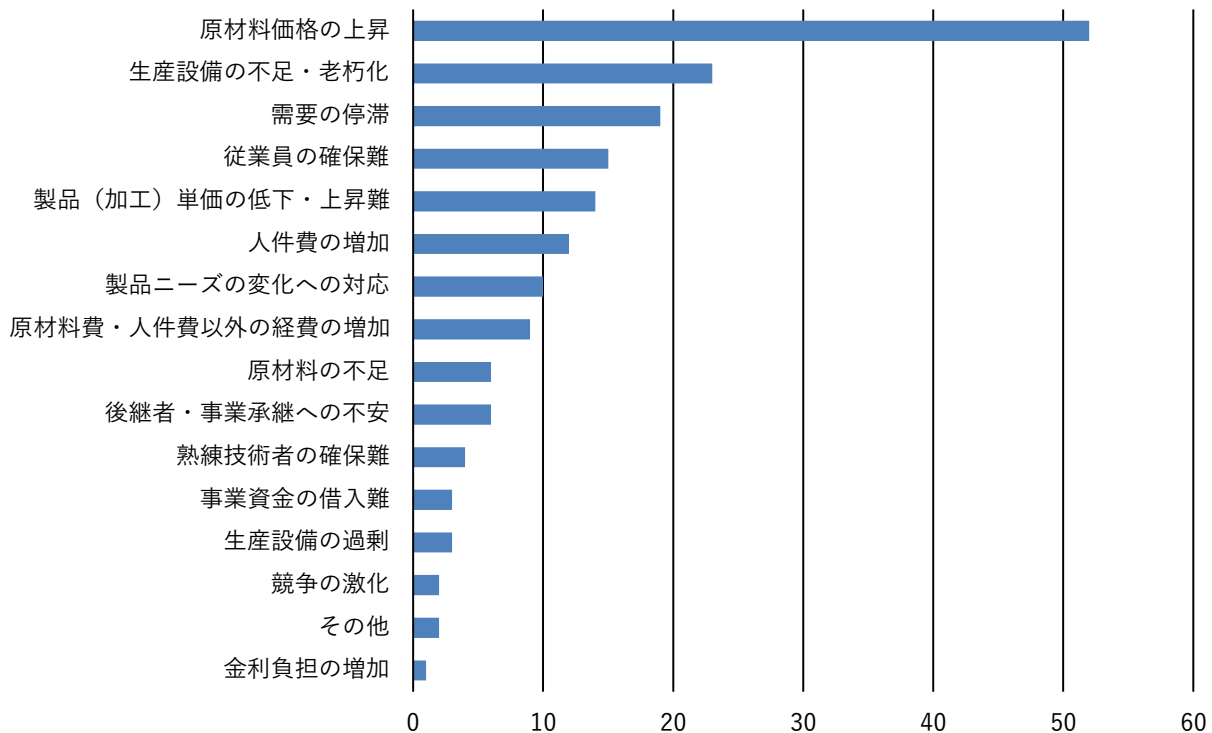
設備投資を実施した企業の割合は31.4%で、前年同期と比べ7.7%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は37.1%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 木材価格の高騰による住宅価格、住宅着工戸数への影響を注視する。（金属製品）
- 業務内容や販売先の再検討に取り組んでいる。（金属製品）
- 材料の値上がり、品薄が続いている。（金属製品）
- コロナ禍のため、先行きに不安を感じている。（ゴム製品）
- 2020年度と比較した場合、売上はほぼ不変だが、コロナ禍前の2019年度と比較した場合、売上は10%程低下した。昨年度比の原油価格は上昇したため、原材料仕入価格も上昇した。（プラスチック）
- 原材料仕入単価の高騰により、価格転嫁が非常に難しい状況にある。（プラスチック）

- 売上の順延等が生じ、苦勞している。（機械器具）
- 新型コロナウイルスの影響で受注件数が減少し、資金繰りが悪化した。（その他繊維製品）
- 昨年はコロナ禍による特需のため、レトルト食品の売上が好調だったが、今期は低迷した。人材の確保と仕入の管理に問題はない。（食料品）
- 前年同期比では好転したが、一昨年同期比では50%の売上となった。まだ先が見えない状況であることに変わりない。（食料品）
- 原材料価格、包装資材価格、光熱費が上昇傾向にあり、経費の削減に努めることで前年同期並みの利益を維持できている。（食料品）
- 主力商品である数の子の原料価格が高騰した。数の子以外の水産加工品の販売額が増加した。（食料品）
- 原材料価格の値上げが増加しており、卸価格に転嫁できないため、厳しい状況にある。（食料品）
- アフターコロナを見据え、従業員を雇用した。（食料品）
- コロナ禍の影響は無く、昨年と変わらない。（食料品）
- 原材料価格が上昇した。（食料品）
- 巣ごもり需要によって、売上は好調だった。（飲料）

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスのワクチン接種の進捗に左右される。接種が遅れる場合、顧客の業務に悪影響が生じると思われる。（金属製品）
- 需要の回復を見込む。（ゴム製品）
- 原材料費の上昇を見込むが、市況が悪化しており、価格転嫁のタイミングが難しい。（プラスチック）
- 業況の回復に至らず、売上の増加は10月以降にずれ込むと思われる。（機械器具）
- 新型コロナウイルスの影響で、需要の落ち込みが懸念される。（衣服）
- 新型コロナウイルスによる業況の悪化からどの程度回復できるのか、官公庁からの受注件数が減少しないかといった点を不安に感じている。（その他繊維製品）
- オリンピック、パラリンピックに多少期待していたが、ワクチン接種が大幅に進まなければ状況は改善しないと見られる。（食料品）
- 原材料価格や包装資材価格の動向、最低賃金改定の結果次第では業況が悪化すると見られる。（食料品）
- 販売方法や戦略を模索しながら、製品在庫の適正化や利益の増加を図る。（食料品）
- 仕入価格、仕入数量の見通しが立たない。（食料品）
- 引合いが来ており、売上の増加を見込む。（食料品）
- 原材料価格が高騰すると見られる。（食料品）
- 今期と変わらないと思われる。（食料品）
- 不透明だが、巣ごもり需要の持続に期待する。（飲料）